

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 1. 『家族団らんの笑い声の出るホーム』を目指す 2. その人の人生を大事にする 3. 常に人生の先輩として敬い、ケアに努める 上記の理念を創立当事に掲げ、施設内に掲示している。	<input type="radio"/> 理念が十分浸透していないので、今後理念が活かされるような介護を目指していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1. 1回/月の職員会議にて全員で唱和している 2. 施設内の3箇所に理念を掲示している	<input type="radio"/> 理念が十分浸透していないので、今後理念が活かされるような介護を目指していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	1. 地域の区長さん、民生委員さんが参加している運営推進会議で理念を説明している。 2. 外来者が目に付きやすい玄関入り口に掲示している。	<input type="radio"/> 今後も理解していただけるように取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ゴミだし、散歩、などであったときに挨拶や会話をしている。 また犬を飼っているの、犬を見に来られる近所の親子連れの方や、主婦の方たちと話をしている。 ・地域の慣習や行司についてわからないことはご近所の方に聞きに行き、教えてもらっている	<input type="radio"/> 今後ももっとより隣近所との付き合いが深まるようにしたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域のさくら祭り、夏祭り等に参加している ・自治会の奉仕活動に参加している	<input type="radio"/> もっとよりいっそう地域とのつながりが深まるように努力したい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	今後積極的に認知症に対する啓蒙活動など行っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成19年3月開所し、今回始めての自己評価、外部評価を受けることになっている	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている	○	もっと深まるように努力していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいる	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用している利用者が1人いる	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加したり、利用者に対しての態度が尊厳を守られるように、言動に対して注意を払っている。そのための手段として、毎月『今月の目標』を立て毎朝朝礼の時に唱和している。	○	より利用者の人権が大切にされ、利用者から教えてもらう姿勢で取り組んでいきたい

グループホームはなみずき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時には契約書及び重要事項に基づき説明を行っている。</p>	○	<p>今後もよりいっそう信頼関係が深まるように取り組んでいきたい</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は個別的に利用者の気持ちを聞き対応している。また管理者は常に利用者の状態に注意を払っており、職員に対する不満等を聞き、対処している。</p>	○	<p>利用者と職員との垣根が泣く、利用者及び家族も同じ目線で何でも話せるような関係作りをしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・金銭管理に関しては購入前には必ず連絡を取り了解を頂いている。1ヶ月の収支決算を必ず文書にて報告している。 ・健康状態に関しては、変化があった時にその都度報告して対応している。また変化がないときは御家族の面会の時に状態を報告している。</p>	○	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来所時面談の機会を持ち、意見や苦情などを聞くように努めている。それらの意見を話し合い運営に反映している。 また第三者委員を設け苦情を聞いてもらう体制は行っている</p>	○	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議および給料明細を渡す機会に職員の個人面談を行い意見を聞く機会を設けている。 まだ運営の基盤がしっかりしていないので、職員の意見がのびのび反映されている状況になっていないのではないかと思われる。</p>	○	<p>職員が和気あいあい意見交換が出来るような環境を作っていきたい</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>努めている</p>	○	<p>今後もよりいっそう努力をしていきたい</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>している。</p>	○	<p>今後も取り組んでいきたい</p>

グループホームはなみずき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に参加できるように配慮している。認知症実践者研修や管理者研修、口腔ケア研修等の実技研修に職員を派遣している。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して取り組んでいきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内で初めてのグループホームであり、まだ開所して期間が経っていないこともあり、取り組みは出来ていない。</p>	<p>○</p> <p>今後取り組んでいきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいるがまだ体制が整っていない為、不十分のところもある。夜勤によるストレス対策としては、開所当事より当直者を配置し夜間一人による精神的ストレスの軽減に努めている</p>	<p>○</p> <p>今後もより満足してもらえるように取り組んでいきたい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努めているが、職員との間にギャップがあり全職員が満足できるものではないと思われる。</p>	<p>○</p> <p>今後もより満足してもらえるように取り組んでいきたい</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>努力はしている</p>	<p>○</p> <p>今後もより満足してもらえるように取り組んでいきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>努力はしている</p>	<p>○</p> <p>今後もより満足してもらえるように取り組んでいきたい</p>

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	している	○	今後も取り組んでいきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	している。デイサービスの利用や、お試し利用、見学などをしていただき馴染めるように努力している。	○	今後も継続して工夫していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	努力しているがまだ不十分どころが見られる	○	今後もより利用者の立場に立ち学ぶ姿勢や支えあう関係を築けるように取り組んでいきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	努力しているがまだ不十分どころが見られる	○	今後も御家族とともに支えていけるように家族会を中心に関係作りをしていきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	している	○	今後もよりいっそう良い関係作りを目指し努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	している。しかし本人の家に帰る等の外出の機会が少ないので、工夫が必要。	○	今後も馴染みの関係が保持されるように工夫していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	している		

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	している。居宅介護支援センター職員からの情報共有し必要時話し合いにも応じている	○	今後も継続していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している	○	今後もよりいっそう本人本位に検討していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めているが、情報が取れず不十分なこともある。	○	今後家族との情報交換により把握に努めていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	不十分。現時点ではカンファレンスが出来ていない為。介護計画作成者の意見に傾きやすい。	○	ケアカンファレンスの定着化をしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	不十分。現時点ではカンファレンスが出来ていない為。介護計画作成者の意見に傾きやすい。介護計画が利用者個別のチャートにないため、スタッフとの共有が出来ていない。	○	ケアカンファレンスの定着化をしていきたい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不十分。介護スタッフとの共有が不十分	○	計画の沿った問題点の捉え方をし、ケアの実践に当たれるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	している。グループホームのみの活動で変化が少なく感じている利用者に対しては、同じ建物の中にあるデイサービスに参加してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	している。一人暮らしの方の入所者に対しては民生委員さん、ボランティアさんの協力を得、病院受診や情報交換しながら支援している。まだまだ支援の輪は弱く今後積極的に取り組んでいく必要がある。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	していない	○	今後取り組んでいきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護に関しては1人利用者がいる。社会福祉協議会の担当者と協働している。地域包括支援センターとの協働はできていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している		

グループホームはなみずき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>している</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>している。当グループホームには4人の看護師がいて利用者の健康管理をしている。またかかりつけ医との連携もとれている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>連携している主治医としていない主治医がある。</p>	<p>○ 今後すべての主治医との連携を図れるようにしていきたい</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時に看取り介護についての説明をし、早期から終末期に関するあり方について家族に考えてもらっている。まだ終末期に関する共有が十分でない</p>	<p>○ 今後職員及び家族、主治医との話し合いを行っていき、職員が不安なく受け入れられるようにしていきたい</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>○ 家族からは終末期までグループホームで介護して欲しいとの希望が大きいですが、介護者サイドでは、死に対する不安が強く、今後「出来ることと出来ないことの見極め」をし、支援出来るように取り組んでいきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>○ まだ経験が少なく今後取り組んでいきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	心がけている	○ 今後も利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大事に出来るような対応に努めていきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	心がけている	○ 今後も利用者本人に合わせ対応していくように勤めていきます
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心がけている	○ 今後も努力していく必要がある
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	心がけている	○ 今後も継続していきたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の高い利用者が多く、一緒に出来る人が少なく、できる利用者からは、「自分だけが・・・」との不満の声も聞かれ、職員がほとんど行っている	○ 今後利用者の気持ちも大事にしながら、楽しく一緒に作業できるように働きかけることが必要
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には、酒、タバコは禁止していないが、病気の為(肝硬変、アルコール性認知症等)のためドクターストップがかかっている利用者があるため、実際には飲んでいない。その他おやつや飲み物は利用者の好みを取り入れている	○ 酒、タバコに関しては、今後希望する利用者があるときは、状況に合わせて楽しめるように支援していきたい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	心がけている	○	今後も夜間の排泄に関しても継続できるように支援していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1月～5月は週2回(火、金)、6月～12月は週3回(月、水、金)に決めて入浴しているが、その日にどうしても入るのを拒否される場合には、入浴日でない日でも入浴してもらっている。	○	今後も利用者の希望に合わせて入浴できるように支援していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心がけている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心がけている	○	今後も一人ひとりに合わせて支援していけるように努力していきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣い管理は事務所で行っている。外出時などに使えるようにしている	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度の高い利用者が多い為、(利用者6人中3人が車椅子介助)なかなか出来ていない。犬の好きな利用者が一人おられ、入所前は犬の散歩が日課だったとのことで、その人に関しては毎日犬の散歩に同行してもらっている	○	出来るだけ戸外で過ごせるように今後努力していきたい。散歩まで出来なくても、天気の良い日や冬期間以外は、ガレージで談笑したりできるように検討していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在は職員が同行しての行事としての外出が年に3回程度しか出来ていない	○	今後家族会と連携し家族と外出できる機会をもっていきたい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できていない	○	今後職員が手助けし、手紙や電話でのやり取りができるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	している	○	今後も継続していきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	○	今後も継続していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。各室には鍵が取り付けしていないため、自由に出入りが出来ている。エレベーターも自由に乗り降りが出来、玄関の鍵は夜間しか掛けていない	○	今後も継続していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	している。日中は1階のデイ職員と連携し、安全や所在の確認に努めている。	○	今後も継続していきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	心がけている。ひげそり用のかみそりなどは、本人の希望に合わせ、本人の居室に置いたりしている。	○	今後も継続していきたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	心がけている	○	今後も事故防止のための学習を行い知識を高めていきたい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現在グループホーム職員9人のうち4人が看護師であり、病気等の急変、応急手当についてはその都度説明を行っている。	○	今後定期的に急変や自己発生時の対応についての勉強会を行っていき、レベルアップに努めていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	心がけているがまだ不十分	○	地域の人を巻き込んだ避難訓練等を行っていき、災害時にすみやかに対応できるようにしていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	不十分	○	今後取り組んでいきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心がけている。看護師、及び介護職による毎日のバイタルサイン体調のチェック、を行っている。体調の変化に関してはかかりつけ医に報告、指示を受け、対処している。	○	今後も継続していきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報をもらっている。それに関して把握に努めている	○	今後も継続していきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ野菜や繊維の多い果物等を取り入れている。またトイレでの排泄習慣をつけるように援助している	○	今後も継続していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや介助によりほぼされている。	○	今後も継続していきたい

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心がけている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	している。食前の手洗いを十分にしている。外出から戻った時は必ずうがいをする等の基本的な事項は実行している。手すりや床は毎日床用洗剤で拭いている。洗濯物は一人ひとり、別々に洗い、また尿や便で汚れた物はハイターで30分以上つけたあと洗濯している。感染防止に対してのマニュアルを作っている。	○	今後も感染防止に対して十分対応していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門や柵がなく、また玄関の戸は和紙を張ったようなガラス戸の為、開放的になっていると思われる。玄関にはプランターの花を置いたりしている。	○	今後も工夫を凝らして安心して出入りできる玄関周りをしていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今には季節感の感じられる作品(利用者とともに作った塗り絵やカレンダー及び置物飾り物等)を展示したり張ってある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間そして入所者が少ないこともあり、居間の食堂やソファを利用して思い思いに過ごされている		

グループホームはなみずき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	出来るだけ本人の使い慣れた物を持ってきてもらっているよ うにしている。	○	今後もよりいっそう快適に過ごせるように工夫していきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	している	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	手すりを取り付けたり、ベッド柵を利用してできるだけ自立し た生活を出来るように工夫している	○	今後も検討を重ねより自立した生活が出来るようにしていきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	心がけている	○	今後も努力していく必要がある
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭の一部に農園を作り参加できるようにしている。また車庫の ガレージではバーベキュー等を行ったりしている	○	今後も努力していく必要がある

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームはなみずき

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大事にしたケアが出来ること。小人数だからこそきめ細かいケアが出来る。利用者と職員が家族的な関係が取れる。